

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871100263
法人名	社会福祉法人 北条福祉協会
事業所名	グループホーム なぎさ
所在地	松山市北条辻1170番地22
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・運営推進会には地域の方の複数の参加が恒例となっており、事業所の内容を把握し、それぞれ意見が多数出ている。地域行事への参加も働きかけてくれ、入居者は楽しみにしている。</p> <p>・リハビリに力を入れており、個々に合わせて実施している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「地域との交流 穏やかな環境 安全安心の確保」という理念を基にして、地域交流スペースを地域住民に開放して交流を図ったり、地元出身の職員の協力を得ながら地域に貢献できることを模索しながら交流を深めている。地域行事へ参加の呼びかけがあったり、避難訓練に地域住民と一緒に参加したりするなど、温かい支援を受けている。地元出身の利用者が多く、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域住民と一緒に支援している。法人代表者は医師で、毎日事業所に来て利用者の状態を把握して健康管理をしているため、利用者や家族は安心感がある。事業所では毎月介護や身体拘束の防止などの勉強会を開催しており、職員が参加しやすいよう休みの職員には超過勤務手当で対応するなど、サービスの向上やスキルアップに努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム なぎさ

(ユニット名) せと

記入者(管理者)
氏名 住田 公彦

評価完了日 平成 26 年 10 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者と職員が理念を共有し、日々実践に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「地域との交流 穏やかな環境 安全安心の確保」という理念を、地域密着型サービスの意義を踏まえて誰もが分かりやすいよう作成している。理念は玄関や共用部に掲示し、職員をはじめ訪れる家族等や地域住民にも理解されている。また、ユニット毎に自己評価表の作成にも取り組むなど、業務の振り返りにも繋がっている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区サロンとの交流会や行事への参加を通じて、地区住民との交流に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、区長が事業所と地域とのパイプ役となり、秋祭りやサロンなどの地域行事へ利用者と一緒に参加したりするなど、日頃から地域住民と密な交流ができています。事業所の地域交流スペースは、地域のいきいきサロンや絵画教室の会場として開放されるなど、事業所として地域に貢献できるよう努めている。保育園児や生け花ボランティアの訪問があり、利用者と交流をしている。調査日前日には亥の子の訪問があるなど、地元出身の職員を中心に事業所に気軽に立ち寄ってもらえるよう取り組んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 中学生の福祉体験学習を受け入れている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、委員から積極的に意見を出して下さり、サービス向上に役立っている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、区長、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員等多くの参加を得て2か月毎に開催している。会議では運営に関する報告を行うほか、参加者から地域の情報をもらったり、防災対策や運営上の課題等について活発な意見が出されたりするなど、有意義な会議となっている。参加者から出された意見は、運営や利用者のサービスに反映できるよう努めている。また、会議では、地域に根ざした事業所となるよう、参加者から意見をもらい実践できるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者が運営推進会議へ参加しており、情報交換を行い、サービス向上に繋げている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の実情や運営状況を伝え、情報や助言をもらっている。地域包括支援センター主催の北条地域密着型サービス事業所連絡会議や北条介護支援専門員連絡会議、北条サービス調整会議に参加し、他の事業所との情報交換をしたり事業所の取組みなどの相談が行われたりするなど、良好な関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関に施錠をしない等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 現在、身体拘束の対象となる具体的なケースはなく、拘束をしないケアが職員に根付いている。毎月の勉強会で介護や拘束をテーマに取り上げたり、職員会で身体拘束をしないケアを話し合う時間を設けるなど、職員は正しく理解している。日中玄関の施錠はなく、職員の見守りや地域住民の協力を得て、利用者の自由な暮らしを支えることができている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止について全職員が認識を持ち、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を実施し、職員の意識付けを行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項説明書や利用契約書を十分説明し、了解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会等で利用者や家族の意見、要望、苦情を聞き、運営に活かしている。	
			(外部評価) 利用開始時に苦情の申し立て先を説明している。家族会や運営推進会議、面会時などに職員から話しかけ、家族から直接意見や要望を聞いている。遠方の家族を含めて面会が多く、訪問時や秋の芋炊き会、忘年会等で家族と交流を深めながら信頼関係づくりを心がけ、意見や要望を言ってもらいやすいよう努めている。現在のところ、利用者や家族からのトラブルや苦情はないが、出された意見や要望は職員間で話し合い、内容や結果は掲示したり事業所の玄関で閲覧できるようにし、早期の対応を心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 人事考課を実施し、職員の意見や提案を聞いている。</p> <p>(外部評価) 法人代表者が毎日事業所に来ているため、事業所の運営の詳細を把握することができている。今年度は管理者の交代や職員のユニット間の異動があったが、現在職員は業務や関係にも慣れ落ち着いている。管理者は利用者の生活の質の向上のため、職員からの提案や新しい考えを柔軟に取り入れることを考えており、良好な関係づくりに努めている。職員は職員会で意見や提案を伝えることができるほか、日常業務の中で、悩みなども相談することができる。ユニットリーダーにも気軽に意見や相談をすることができ、出された意見を反映しながら働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。また、勉強会に参加しやすいよう、休みの職員には超過勤務手当を出し対応している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は状態把握の為、頻回に事業所へ来ており、報告・意見を聞いている</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 出来る限り研修の機会を設けている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 管理者が事業所連絡会議へ参加し、ネットワーク作りに役立っている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居事前調査にて本人の状態把握や不安・希望を聞き、信頼関係を築く事に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査を行い、家族からの相談を受け、問題解決に向けて話し合う機会を持っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族への支援を十分に職員が把握し、その時々に応じた柔軟な対応を行うように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人が安全・安心して過ごせるように精神的な支えとなるよう、信頼関係を築く努力をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人と家族との関係が円滑に行くよう配慮し、支えていくよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出時に馴染みの場所を訪れ、知り合いに再会することで以前の生活を回想出来るような機会が持てるようにしている。また、その時の写真をアルバムに残したり、ホールに掲示することで、回想出来るような支援に努めている。 (外部評価) 旧北条市の近隣の利用者が多く、住み慣れた地域のため馴染みの場所に出かけたり、知人や友人に出会ったりする機会も多い。事業所には顔馴染みの職員もいる。利用開始時に、利用者や家族から馴染みの関係を聞いているほか、日常会話の中から聞くこともあり、少しでも多く把握できるよう努めている。家族の協力を得て、お盆などに自宅に帰るなど外泊を楽しむ利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に行事に参加したり、外出をすることで、共に過ごせる時間を持ち、支えあえる関係作りが出来るように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者が退居後も家族が来所し、入居者や職員と気楽に話しが出来る。行事等にも案内し、関係の継続を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中での関わりを通じ、意見や希望を聞く等把握に努めて、利用者本位のケアの実現に向けて職員間で話し合う機会を持っている。	
			(外部評価) 利用者懇談会を開催して思いや意向を聞いていたが、あまり意見は出されなかった。日常会話の中で、利用者の思いや意向を聞くこともあり、職員は日頃から利用者とのコミュニケーションを大切に考え支援している。思いを伝えることが難しい利用者には、家族から情報を聞いたり、表情等から気持ちをくみ取るよう努めたりするなど、残存能力を活かしながら利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方等を聞き取り、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の馴染みの方や物、場所等を把握し、外出時に回想出来るように支援を行っている。また、心身状態や生活のリズムを把握し、その日の流れの中で出来ることや役割を支援し、現状把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスに家族も参加して頂き、本人・家族の意見や希望を取入れ、介護計画書を作成している。欠席の場合は事前に要望を聞いている。	
			(外部評価) 利用者や家族等の意向を盛り込み、具体的な目標にするよう職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。毎月ユニット会を開催し、ユニット間で介護計画を確認して共有し、計画に沿ったサービスが実践できるよう努めている。利用者毎の担当者がチェック表で毎月モニタリングを行い、状態の変化など必要に応じて利用者や家族と話し合い、見直しをしている。また、法人内で統一ソフトを導入しており、介護記録などはパソコンに入力し管理している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の状況をパソコンの個別ファイルに入力し、記録を共有することで介護計画の見直しに活かしている。申送り等で気付いたことを話し合い、日々の支援に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況により、外出や外泊等柔軟に対応できるように支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に地域の代表や民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得、情報交換や協力関係の強化に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人や家族の希望を取入れながら掛かりつけ医と連携し、状 況により協力病院や希望の医療機関で診察が受けられるよう に支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て 継続して受診することができる。利用開始時に協力医を希望 してかかりつけ医にする利用者も多い。法人代表者は医師 で、毎日事業所に来て利用者の健康管理をしている。協力医 と連携を図れており、緊急時に往診での対応も可能で、利用 者や家族は安心感がある。また、事業所には看護師が配置さ れているため、急変時にも迅速に対応することが職員の安心 感にも繋がっている。受診内容は、家族に報告してもらいな ど情報を共有している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護師を配置し、24時間連絡が取れる体制にしており、看護 師と介護職が連携を取りながら、利用者の健康管理や医療支 援を行っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 協力病院と連携し、情報交換しながら早期退院に向けて相談 に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合に備え、早い段階から家族と話し合い、方針 を共有している。また、重度化に対応するために、特養と連 携しスムーズに入所出来るように努めている。</p> <p>(外部評価) 「看取りの指針」を作成し、利用開始時に事業所として対応 できる内容を利用者や家族に説明し、意向を確認している。 状態に応じて利用者や家族等と話し合いをして意向を確認 し、医療機関と連携しながらチームでの支援に取り組んでい る。事業所では看取りを数件経験している。職員は外部研修 や勉強会に参加し知識や技術の向上に努めているほか、職員 の看取りの経験が達成感ややりがいに繋がっている。家族に 最後の時間を共有してもらうため、居室にソファなどを持ち 込んで宿泊してもらうこともあり、利用者や家族の精神的な サポートも含め、納得し安心して最期を迎えられるよう支援 している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師が24時間連絡が取れる体制にしており、直ぐに連絡・指示が受けられる。緊急連絡網により職員の連絡体制を整えており、職員会等で緊急時の対応を勉強し、対処出来るように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めると共に、近隣や地区の応援が得られるように訓練を通じて協力を得ている。 (外部評価) 年2回、昼間や夜間の火災や津波など具体的な場面を想定して防災訓練を実施している。法人のマニュアルを参考にし、事業所用マニュアルを整備している。火災や地震のほか、事業所は海に近いため津波等の水害に対する備えも検討しており、災害毎に避難場所や経路等の確認している。運営推進会議でも災害をテーマに取り上げ、地域住民と災害対策についての話し合いを行うなど、相互の協力体制を築いている。また、法人として介護用品や食料等の備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の立場に立ったケアを行うことを最重点とし、個人情報取扱には十分注意している。法人の個人情報保護についての基本方針をホールに掲示している。 (外部評価) 北条地区の独特の方言やイントネーションを大切にしながら、利用者の誇りや自尊心を損ねない一人ひとりに合わせた声かけや対応を心がけて支援している。法人の広報紙の掲載する写真などは、利用者や家族の意向を確認し同意を得て使用している。また、記録など個人情報の取り扱いにも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 希望を聞き取り、選択肢を増すことで自己決定し易いように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の状態を考慮しながら希望を最優先とし、本人のペースを大事にしながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日同じ服装にならないようにしながら、身だしなみに注意している。髪飾りや手作りのプレスレットを身に付け、お洒落を楽しめるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 栄養士が作成した献立を基に、栄養バランスの取れた食事を提供するようにしている。また、食事の下準備や食器拭き等、職員と一緒に作業を行うことで利用者の生き甲斐や楽しみとなるように支援している。ただ、食事量の多さを指摘する声もある。 (外部評価) 利用者の好みや意見を聞き職員が献立を考えていたが、食費やメニューにばらつきがあったため、現在は法人の栄養士がバランスのとれた献立を作成している。地域の複数のお店から新鮮な食材が配達され、職員が調理している。利用者から「職員と一緒に同じものを食べたい」という意見が出されたが食費もあり実現していない。下ごしらえや食器拭きなど利用者の力を活かしながら、できることを一緒に手伝ってもらっており、利用者の自信や張り合い、喜びなどに繋げる支援をしている。	食事前の口腔体操と食事の時間はテレビを消しているため、利用者の生活にメリハリがあるが、静かすぎて違和感がある。食事時間に音楽を流したり、職員と会話をしながら食事をしたりするなど、和やかな雰囲気づくりや食事が楽しみになるような取組みを期待したい。また、食事時間だけでなく利用者の一日の生活を振り返り、職員と一緒に会話をしたり、利用者の希望に沿える満足ある生活が送れるような取組みに挑戦することを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分の量を記録し、体調等を考慮した支援に心掛けている。不足時には本人の好みの物を用意し、補えるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後や就寝前の歯磨きや、義歯の洗浄等により口腔内の清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) プライバシーに配慮しつつ、排泄チェック票を使用し、利用者の状態にあわせた排泄が出来るように支援を行っている。コンピュータのソフトを利用し、日常の記録を出し、状況の把握が出来るようにしている。</p> <p>(外部評価) 2部屋毎に居室と直結してトイレがあり、利用者は自室のトイレとして使用することでリラックス感がある。利用者の排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに応じた排泄リズムで声をかけトイレへ誘導している。トイレで排泄できるよう下肢筋力の低下を防止するためのリハビリを取り入れており、理学療法士を招いて勉強会を開催している。また、利用者の身体機能の維持を大切に、トイレでの自然な排泄ができるよう努めたり、自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 排便チェック表を活用し、毎日のリハビリや散歩を通して身体を動かし、飲食物の工夫やマッサージ等で便秘の予防に努めている。また、排便等の状況を職員間で共有し、普段のケアに活かしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 行事等を考慮しながら、週3回は入浴出来るよう支援している。入浴剤を使用したり、個浴ということもあり、職員とのコミュニケーションの場となっている。浴槽の縁が跨げない方にはリフトを利用し、ゆっくり湯船に漬かれるようにしている。入浴しない日は足浴を実施している。</p> <p>(外部評価) ユニット毎に個別浴槽があり、後付のリフトを活用しながら安全に入浴できるよう支援している。週3回を基本として、身体状況や希望に応じて入浴することができる。入浴を嫌う利用者はいないが、入浴すること自体が分からなくなった利用者があり、声かけやタイミングなど誘い方を工夫しながら、入浴したい気持ちになるように見守りながら支援している。また、入浴をできない日には、足浴などを行い清潔保持に努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 各々の生活習慣を把握し、体調を考慮しながら安心して眠れるように支援を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員2人で服薬チェックを行っている。服薬については職員全員が理解をしており、服薬後の薬袋は当日直ぐ破棄せずに保管している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 各々の生活歴に応じ、得意分野や興味のあるものを見出し、それを活かすようにしている。食器拭きや洗濯物たたみ等、個々に合った役割を持って貰い、それが生き甲斐になるよう支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望等を聞きながら、偏りなく外出出来るように支援を行っている。 (外部評価) 利用者の希望や季節に応じた外出を取り入れた計画を立て、外出支援をしている。日常会話から利用者の希望を聞き、リハビリがてら散歩に出かけたり喫茶店でお茶を楽しんだりするなど、柔軟な対応をしている。管理者は、利用者の意欲や生活の張りに繋がる支援ができるよう、個別の外出希望に対応したり、外出回数を増やしたりできることを検討している。また、家族と一緒に外出を楽しむ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物等では出来るだけ本人に支払をして貰い、社会性の維持に努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に電話を掛けたり、手紙を出せるよう支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には利用者の馴染みの物を持ち込み、安心出来るような生活空間が作れるように対応している。また、共有スペースには心地よく過ごせるよう、植物等を置いている。</p> <p>(外部評価) 平屋建て事業所の天井は高く開放感があり、天窓から自然光が差し込み明るい。地域住民に開放されている地域交流スペースがあり、利用者と一緒に交流を楽しむこともある。ユニット間は自由に行き来することができ、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。また、長い廊下等を利用して、散歩や歩行訓練などのリハビリをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共有スペースを広く取ることで、一人ひとりがゆったり過ごせるよう配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅から使い慣れた物を持ち込んだり、家族等との思い出の物を飾ったりし、和める空間になるよう配慮している。また、家族との絆を大切に過ごせるように対応している。</p> <p>(外部評価) 居室は改装され、2部屋毎に直結してトイレを設置している。ベッド、いす、クローゼット、エアコン、洗面台が備え付けられており、使い慣れたものや思い出の品々を持ち込んでもらえるよう利用者や家族に声かけをしている。火災や火傷などの防止のため、電気毛布の使用は禁止しており、エアコンを使用し適度な室温を調整している。家族や保育園児の手紙等を飾り、利用者に合わせて居心地の良い空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者の能力を探りながら、本人の強みを職員が大切にし、自立した生活に近づけるように支援を行っている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871100263
法人名	社会福祉法人 北条福祉協会
事業所名	グループホーム なぎさ
所在地	松山市北条辻1170番地22
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・運営推進会には地域の方の複数の参加が恒例となっており、事業所の内容を把握し、それぞれ意見が多数出ている。地域行事への参加も働きかけてくれ、入居者は楽しみにしている。 ・リハビリに力を入れており、個々に合わせて実施している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「地域との交流 穏やかな環境 安全安心の確保」という理念を基にして、地域交流スペースを地域住民に開放して交流を図ったり、地元出身の職員の協力を得ながら地域に貢献できることを模索しながら交流を深めている。地域行事へ参加の呼びかけがあったり、避難訓練に地域住民と一緒に参加したりするなど、温かい支援を受けている。地元出身の利用者が多く、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域住民と一緒に支援している。法人代表者は医師で、毎日事業所に来て利用者の状態を把握して健康管理をしているため、利用者や家族は安心感がある。事業所では毎月介護や身体拘束の防止などの勉強会を開催しており、職員が参加しやすいよう休みの職員には超過勤務手当で対応するなど、サービスの向上やスキルアップに努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム なぎさ

(ユニット名) たかなわ

記入者(管理者)

氏名 住田 公彦

評価完了日 平成 26 年 10 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者と職員が理念を共有し、日々実践に取り組んでいる。理念をユニット食堂に掲示したり、ユニット玄関に入居者直筆の理念を掲示し、地域の方や来所者にも分かりやすくしている。運営推進会議やユニット会でも実践に繋げる話し合いをしている。</p> <p>(外部評価) 「地域との交流 穏やかな環境 安全安心の確保」という理念を、地域密着型サービスの意義を踏まえて誰もが分かりやすいよう作成している。理念は玄関や共用部に掲示し、職員をはじめ訪れる家族等や地域住民にも理解されている。また、ユニット毎に自己評価表の作成にも取り組むなど、業務の振り返りにも繋がっている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に加入し、回覧板や区長等から情報を集め、新年会や七夕、秋祭り等の地域の行事に利用者や職員が参加している。事業所主催の芋炊き会には地域住民も多数参加している。いきいきサロンへの参加や保育園児の訪問、中学生の体験学習等の受け入れを行い、積極的に交流を図っている。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、区長が事業所と地域とのパイプ役となり、秋祭りやサロンなどの地域行事へ利用者と一緒に参加したりするなど、日頃から地域住民と密な交流ができています。事業所の地域交流スペースは、地域のいきいきサロンや絵画教室の会場として開放されるなど、事業所として地域に貢献できるよう努めている。保育園児や生け花ボランティアの訪問があり、利用者と交流をしている。調査日前日には亥の子の訪問があるなど、地元出身の職員を中心に事業所に気軽に立ち寄ってもらえるよう取り組んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) いきいきサロンとの交流会で介護講座を開催し、地域包括支援センター職員の出席を得、介護保険や介護予防について理解を深めて貰っている。人材育成の為、介護実習生の受け入れを積極的に行っている。</p>	

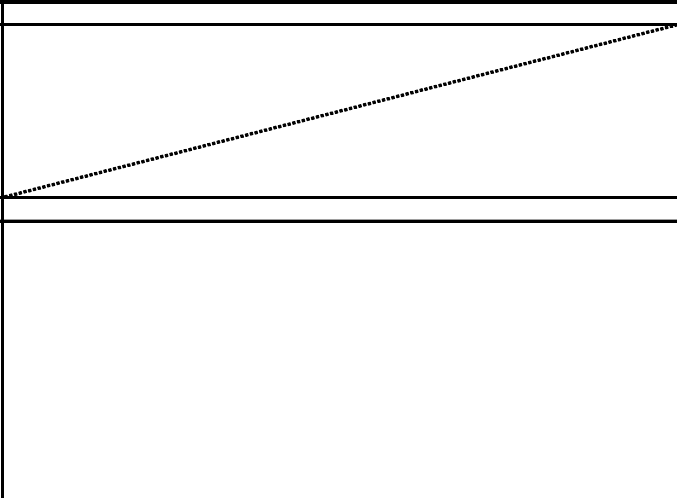
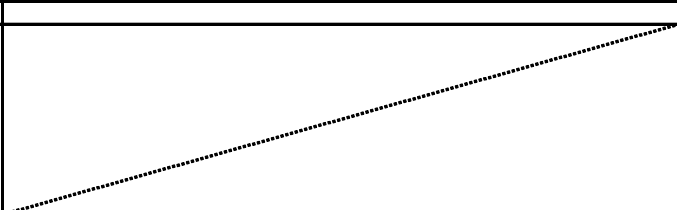
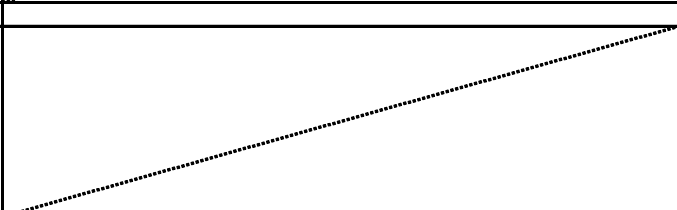
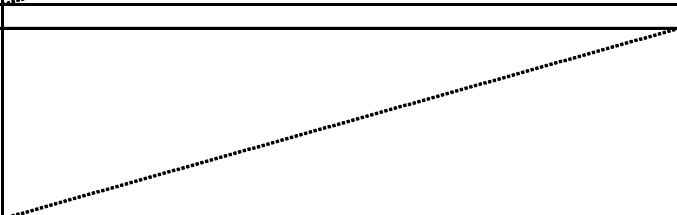
自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には利用者や家族、地域住民代表、市職員等の参加を得、2ヶ月毎に開催している。事業所の現状や取組みを報告し、参加者からの意見や要望をサービス向上に活かしている。特に地域住民から具体的に有意義な意見が出ている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、区長、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員等多くの参加を得て2か月毎に開催している。会議では運営に関する報告を行うほか、参加者から地域の情報をもらったり、防災対策や運営上の課題等について活発な意見が出されたりするなど、有意義な会議となっている。参加者から出された意見は、運営や利用者のサービスに反映できるよう努めている。また、会議では、地域に根ざした事業所となるよう、参加者から意見をもらい実践できるよう努めている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市の担当課には運営推進会議で事業所の現状を報告し、情報や助言を貰い連携している。また、地域包括支援センター主催の北条サービス調整会議(毎月)や北条地域密着型サービス事業所連絡会(年4回)、北条介護支援専門員連絡会(年4回)参加し、情報交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の実情や運営状況を伝え、情報や助言をもらっている。地域包括支援センター主催の北条地域密着型サービス事業所連絡会議や北条介護支援専門員連絡会議、北条サービス調整会議に参加し、他の事業所との情報交換をしたり事業所の取組みなどの相談が行われたりするなど、良好な関係が築かれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束について勉強会を行い、身体拘束の内容や弊害を認識し、玄関を施錠しない等身体拘束をしないで安全で自由な暮らしを支援するようなケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 現在、身体拘束の対象となる具体的なケースはなく、拘束をしないケアが職員に根付いている。毎月の勉強会で介護や拘束をテーマに取り上げたり、職員会で身体拘束をしないケアを話し合う時間を設けるなど、職員は正しく理解している。日中玄関の施錠はなく、職員の見守りや地域住民の協力を得て、利用者の自由な暮らしを支えることができている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止について勉強会を行い、全職員が意識を持って防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修を行うことで、職員の意識付けを行い、必要な際には活用出来るように話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には重要事項説明書や利用契約書について十分に説明した上で契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議、意見箱等で利用者や家族の意見、要望、苦情を聞き、運営に活かしている。また、家族が来所した際に利用者の状況を説明し、意見や要望を聞くようにしている。出された意見や要望等については、職員間で話し合い、運営に反映出来るように努めると共に、意見の内容や対応結果を掲示するように取り決めているが、最近では意見箱への意見は出ていない。	
			(外部評価) 利用開始時に苦情の申し立て先を説明している。家族会や運営推進会議、面会時などに職員から話しかけ、家族から直接意見や要望を聞いている。遠方の家族を含めて面会が多く、訪問時や秋の芋炊き会、忘年会等で家族と交流を深めながら信頼関係づくりを心がけ、意見や要望を言ってもらいやすいよう努めている。現在のところ、利用者や家族からのトラブルや苦情はないが、出された意見や要望は職員間で話し合い、内容や結果は掲示したり事業所の玄関で閲覧できるようにし、早期の対応を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 代表者は毎日事業所に来所し、職員と接する機会を持つように努めている。代表者は年2回人事考課を実施し、職員の意見や提案を聞いている。また、職員用の意見箱も設置し、出された要望と対応結果を掲示している。</p> <p>(外部評価) 法人代表者が毎日事業所に来ているため、事業所の運営の詳細を把握することができている。今年度は管理者の交代や職員のユニット間の異動があったが、現在職員は業務や関係にも慣れ落ち着いている。管理者は利用者の生活の質の向上のため、職員からの提案や新しい考えを柔軟に取り入れることを考えており、良好な関係づくりに努めている。職員は職員会で意見や提案を伝えることができるほか、日常業務の中で、悩みなども相談することができる。ユニットリーダーにも気軽に意見や相談をすることができ、出された意見を反映しながら働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。また、勉強会に参加しやすいよう、休みの職員には超過勤務手当を出し対応している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は利用者の状態把握の為、頻回に現場へ来ている。管理者は職員と共に利用者に関わり、職員個々の理解を深め、助言又は相談等に応じ、代表者と連携を取っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 事業所内で月2回程度の勉強会を実施し、3ヶ月に1回はOTを招いてリハビリなどの指導を仰ぎ、実践に繋げている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 管理者が地域包括支援センター主催の北条サービス調整会議に参加し、ネットワーク作りや勉強会等を通じて、サービスの質の向上に努めている。又、研修会等で他施設の職員と意見交換を通じ、業務に役立てている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居事前調査にて本人の状態把握を行うと共に、本人の不安や希望を聞くことで、本人との信頼関係を築くことに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査にて家族からの相談を真摯に受け止め、問題解決に向けてお互いに協力出来る関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人及び家族への支援内容を十分に把握し、その時に応じた柔軟な対応を行うように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に暮らし、教え教えられ、支え合う生活の中から利用者個々をより深く知る努力をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の思いを受け止め、本人及び家族と情報交換しながら本人の生活を支援している。家族も協力的である。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族をはじめ、知人や友人の訪問があり、居室でくつろげるように配慮している。利用者のかつての住まいの近くへのドライブや集まりの場へ参加したり、自宅へ帰ったり、なじみの人や場所との関係継続を支援している。	
			(外部評価) 旧北条市の近隣の利用者が多く、住み慣れた地域のため馴染みの場所に出かけたり、知人や友人に出会ったりする機会も多い。事業所には顔馴染みの職員もいる。利用開始時に、利用者や家族から馴染みの関係を聞いているほか、日常会話の中から聞くこともあり、少しでも多く把握できるよう努めている。家族の協力を得て、お盆などに自宅に帰るなど外泊を楽しむ利用者もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に家事をしながらコミュニケーションを取ったり、利用者同士が助け合う部分に対しては安全を確保しながら見守っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後もその都度行事の案内をしたり、来所して貰ったりして関わり持つことを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中での関わりを通じて、本人の意向や希望を聞いたり汲み取ったりしながら把握に努め、本人本位に活かしている。 (外部評価) 利用者懇談会を開催して思いや意向を聞いていたが、あまり意見は出されなかった。日常会話の中で、利用者の思いや意向を聞くこともあり、職員は日頃から利用者とのコミュニケーションを大切に考え支援している。思いを伝えることが難しい利用者には、家族から情報を聞いたり、表情等から気持ちをくみ取るよう努めたりするなど、残存能力を活かしながら利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で寄り添い、情報を積み重ねている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 心身の状態や生活のリズムを把握し、その日の流れの中で出来る事や役割を支援し、状況を把握している。また、先入観より決め付けしないで、出来る力を発見出来るように努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の要望を取り入れながら計画書を作成している。毎月モニタリングを行い、変化に対して本人や家族と相談しながら対応している。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族等の意向を盛り込み、具体的な目標にするよう職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。毎月ユニット会を開催し、ユニット間で介護計画を確認して共有し、計画に沿ったサービスが実践できるよう努めている。利用者毎の担当者がチェック表で毎月モニタリングを行い、状態の変化など必要に応じて利用者や家族と話し合い、見直しをしている。また、法人内で統一ソフトを導入しており、介護記録などはパソコンに入力し管理している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別ファイルを作成し、記録を共有することで介護計画等に活かしている。随時職員間で気づきを話し合い、情報を常に共有している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の状況により、外出や外泊等柔軟に対応出来るよう支援している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域のボランティアによる生け花や演芸、保育園児の来所等、利用者が楽しめる機会を設けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診出来るよう支援 し、連携を持っている。受診には出来るだけ家族に同行して 頂き、情報を共有している。事業所には医師でもある代表者 が毎日来所し、利用者の状態を把握しており、利用者や家族 の安心感になっている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て 継続して受診することができる。利用開始時に協力医を希望 してかかりつけ医にする利用者も多い。法人代表者は医師 で、毎日事業所に来て利用者の健康管理をしている。協力医 と連携を図れており、緊急時に往診での対応も可能で、利用 者や家族は安心感がある。また、事業所には看護師が配置さ れているため、急変時にも迅速に対応することが職員の安心 感にも繋がっている。受診内容は、家族に報告してもらいな ど情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を配置し、24時間常に看護職と介護職が連携を取れ る体制としており、利用者の健康管理や医療支援を行っている。 また、看護職は介護職を兼務しており、日々の生活のケ アを通して一人一人を把握している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関と連携し、情報交換しながら早期退院に向けて 相談に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に事業所の方針を伝え、利用者や家族の意向に沿って 安心して終末期を迎えられるように、繰り返し意思を確認し ながら取り組んでいる。見取りの指針を作成し、職員は外部 及び内部研修を受講し体制を整えている。	
			(外部評価) 「見取りの指針」を作成し、利用開始時に事業所として対応 できる内容を利用者や家族に説明し、意向を確認している。 状態に応じて利用者や家族等と話し合いをして意向を確認 し、医療機関と連携しながらチームでの支援に取り組んでい る。事業所では看取りを数件経験している。職員は外部研修 や勉強会に参加し知識や技術の向上に努めているほか、職員 の看取りの経験が達成感ややりがいに繋がっている。家族に 最後の時間を共有してもらうため、居室にソファなどを持ち 込んで宿泊してもらうこともあり、利用者や家族の精神的な サポートも含め、納得し安心して最期を迎えられるよう支援 している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師とは24時間連携が取れる体制としており、急変時には直ぐ連絡・指示が受けられ、指示に従い対応出来るよう、勉強会等を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 緊急連絡網や訓練マニュアル、避難経路図を作成し、職員と利用者、地域住民も参加して夜間想定訓練を実施している。自主防災組織にも加わり、災害時の相互協定を結んでいる。また、津波による避難訓練も実施しており、地域の方も一緒に訓練に参加して貰っている。訓練後には、反省や意見を頂いている。 (外部評価) 年2回、昼間や夜間の火災や津波など具体的な場面を想定して防災訓練を実施している。法人のマニュアルを参考にして、事業所用マニュアルを整備している。火災や地震のほか、事業所は海に近いため津波等の水害に対する備えも検討しており、災害毎に避難場所や経路等の確認している。運営推進会議でも災害をテーマに取り上げ、地域住民と災害対策についての話し合いを行うなど、相互の協力体制を築いている。また、法人として介護用品や食料等の備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の立場に立ったケアをすることを最重点とし、個人情報の取扱については十分に注意している。利用者個々の人格を尊重し、対応や言葉遣いについてユニット会で具体的に話し合っている。 (外部評価) 北条地区の独特の方言やイントネーションを大切にしながら、利用者の誇りや自尊心を損ねない一人ひとりに合わせた声かけや対応を心がけて支援している。法人の広報紙の掲載する写真などは、利用者や家族の意向を確認し同意を得て使用している。また、記録など個人情報の取り扱いにも気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望を聞き、本人の選択肢を増やし、自己決定し易いように支援している。また、表情や反応にて相手の心理が把握出来るように普段から密に関わるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の状態を考慮しながら、本人の希望やペースを大事にしながら個々に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みや意向を尊重した服装や髪飾り等本人の拘りが継続出来るように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 栄養士の立てた献立にて新鮮な食材を配達して貰い、職員が調理をしている。利用者の好みは日々の会話等から把握し、栄養士と連携を取っている。利用者も皮むき等の下拵え、食器拭き等出来ることは一緒にするようにしている。 (外部評価) 利用者の好みや意見を聞き職員が献立を考えていたが、食費やメニューにばらつきがあったため、現在は法人の栄養士がバランスのとれた献立を作成している。地域の複数のお店から新鮮な食材が配達され、職員が調理している。利用者から「職員と一緒に同じものを食べたい」という意見が出されたが食費もあり実現していない。下ごしらえや食器拭きなど利用者の力を活かしながら、できることを一緒に手伝ってもらっており、利用者の自信や張り合い、喜びなどに繋げる支援をしている。	食事前の口腔体操と食事の時間はテレビを消しているため、利用者の生活にメリハリがあるが、静かすぎて違和感がある。食事時間に音楽を流したり、職員と会話をしながら食事をしたりするなど、和やかな雰囲気づくりや食事が楽しみになるような取組みを期待したい。また、食事時間だけでなく利用者の一日の生活を振り返り、職員と一緒に会話をしたり、利用者の希望に沿える満足ある生活が送れるような取組みに挑戦することを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分摂取を記録し、状態に応じた支援をしている。不足する場合は好みの物を用意し、補えるよう支援している。食事前の口腔体操をすることで食欲を高め、食事が楽しんで頂けるように食べ易い食器の工夫を行ったり、声掛けや環境整備をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後や就寝前の歯磨きや義歯の洗浄については、一人一人の能力に合わせて支援をしている。また、食前に口腔体操を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、自立に向けてトイレやポータブルトイレでの排泄を支援している。現在では全員トイレでの排泄にてパット汚染は軽減している (外部評価) 2部屋毎に居室と直結してトイレがあり、利用者は自室のトイレとして使用することでリラックス感がある。利用者の排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに応じた排泄リズムで声をかけトイレへ誘導している。トイレで排泄できるよう下肢筋力の低下を防止するためのリハビリを取り入れており、理学療法士を招いて勉強会を開催している。また、利用者の身体機能の維持を大切に、トイレでの自然な排泄ができるよう努めたり、自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を活用し、毎日のリハビリや散歩を通じて身体を動かしたり、飲食物の工夫をしたり入浴時に腹部マッサージを行う等便秘予防に努めている。排便の情報を職員間で共有している。医師や看護師とも連携している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の都合やタイミングで入浴を行っている。入浴剤を使用し、個浴することで一人ひとりとのコミュニケーションの場としても、ゆったりと時間を掛け楽しみになるような支援を行っている。また、入浴日以外には足浴を実施したり、リフトを設置することで重度化にも対応出来るようになっている。 (外部評価) ユニット毎に個別浴槽があり、後付のリフトを活用しながら安全に入浴できるよう支援している。週3回を基本として、身体状況や希望に応じて入浴することができる。入浴を嫌う利用者はいないが、入浴すること自体が分からなくなった利用者があり、声かけやタイミングなど誘い方を工夫しながら、入浴したい気持ちになるように見守りながら支援している。また、入浴をできない日には、足浴などを行い清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣を把握したり、体調を考慮し、安心して休息したり。眠れるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、服薬について全職員が理解すると共に誤薬防止の為、二人の職員によるチェックを実施すると共に、服薬後の薬袋は当日直ぐに廃棄せず、保管している。また、排便チェック表を作成し、服薬状況や排便状況と、医師や看護師への連絡に役立っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴に応じて、得意分野を見つけ出し、それを活かしている。食器拭きや洗濯物たたみ、庭掃除、花への水やり、草引き等役割を持って頂き、楽しみや気分転換の支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの希望に合わせて家族の協力を得ながら近隣の洋服店や薬局へ買い物に出かけられるように支援している。また、年間行事計画を立てて、季節の花見や花火、ドライブ等を実施している。戸外へ出かけられるように日頃からリハビリにも力を入れて、体力づくりをしている。 (外部評価) 利用者の希望や季節に応じた外出を取り入れた計画を立て、外出支援をしている。日常会話から利用者の希望を聞き、リハビリがてら散歩に出かけたり喫茶店でお茶を楽しんだりするなど、柔軟な対応をしている。管理者は、利用者の意欲や生活の張りに繋がる支援ができるよう、個別の外出希望に対応したり、外出回数を増やしたりできることを検討している。また、家族と一緒に外出を楽しむ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は本人がお金を持つことの大切さを理解し、買い物時は一緒にお金を支払う等、社会性の維持に努めている。能力に応じて小銭程度を自己管理し、自由に電話を掛けている。預かり金については使途に関して家族に説明し、月1回確認を頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人へ本人から電話したり、手紙を出せるように支援している。また、届いた手紙については、能力に応じて関わるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用空間は広々として明るく、居間には人数分のソファや本箱、テレビ、季節の花等があり、ゆっくり寛ぐ事が出来る。窓からは季節ごとに花が咲いているのが見え、楽しめている、窓はカーテンで日差しを調節している。また、床暖房により適温が保たれ、心地良く過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 平屋建て事業所の天井は高く開放感があり、天窓から自然光が差し込み明るい。地域住民に開放されている地域交流スペースがあり、利用者と一緒に交流を楽しむこともある。ユニット間は自由に行き来することができ、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。また、長い廊下等を利用して、散歩や歩行訓練などのリハビリをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間を広く取ることで、一人ひとりがゆったり過ごしたり、利用者同士が会話出来る工夫をしている。また、居間と食堂を自由に行き来が出来、思い思いに自由に過ごせるように支援している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅から使い慣れた物や家族との思い出の物等を持ち込んだりして、家族との絆を大切にしながら、過ごせるように支援している。</p> <p>(外部評価) 居室は改装され、2部屋毎に直結してトイレを設置している。ベッド、いす、クローゼット、エアコン、洗面台が備え付けられており、使い慣れたものや思い出の品々を持ち込んでもらえるよう利用者や家族に声かけをしている。火災や火傷などの防止のため、電気毛布の使用は禁止しており、エアコンを使用し適度な室温を調整している。家族や保育園児の手紙等を飾り、利用者に合わせて居心地の良い空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者の分かる力を職員が大切に考え、自立した生活が出来るように工夫している。不安や混乱・失敗を最小限に出来るように話し合いを行い、個々の環境づくりを行っている。</p>	